
シャッター

アムネジア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
シャッター

【Nコード】
N5095H

【作者名】
アムネジア

【あらすじ】
カメラを携えた『彼』と『彼女』の話

目の前の光景から少し、それを分けてもらおう。彼女と彼は並んで、違う形のカメラで同じ風景を覗き込んだ。しかし、焦点が二人はまったく違っていた。

「何見てるの？」

彼女はそう、隣でカメラを構える彼に問う

「ビルとビルの中の風景、そっちは？」

ふと、ファインダーから目をそらし彼女を見る。彼女は少し唸りつつ、ピントを合わせていく。うまく定まらないようなので、

「オート使いなよ、いつまでたっても合わないよ？」

親切心からの言葉だったが、彼女の心を逆なでしたようだった。

彼女はファインダーをまだ覗いている。

「オートは使いたくない。携帯じゃないんだし。…うん、いい感じ」
シャッターをようやく押した彼女は、満足そうに、カメラのディスプレイに写る風景を眺める。彼もそれを覗き込んで見る。彼はそれを見た後、すぐに自分のカメラを構え、シャッターを切る。

「全部にピントが合ったらどうなるんだろうね。」

彼は何枚か同じ風景を撮り続けながら問う。

「そんなことしたらきつと疲れるよ、見えなくても、それを見ようと頑張れるから」

「出来れば頑張りたいくないな、その場で、見たい」

ようやく満足したのか、ファインダーから目を離し自分の目で風景を見る。カメラをバックにしまいその場に腰を下ろす。

「気にせずにどうぞ。」

まだカメラを構えている彼女に、少し疲労感を感じさせるような声で彼は言った。

「じゃあ、遠慮なく。」

彼女はカメラを、広大な風景から、隣の彼に向ける。シャッター

を押せば、少し驚いた顔の彼が、写りこんでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5095h/>

シャッター

2010年12月10日21時24分発行